がんばろう 南三陸町

復興第41号



発 行 所

千葉総合印刷株式会社

本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84 TEL(46) 3069 FAX(46)3068

志津川広報センター 企画・編集 千葉伸孝

防災対策庁舎の動き(5月) (7

●町民意見(パブリックコメント)は 664 件と、 配布世帯戸数の 14%にとどまり、議員からは 「50%を割っていて低い数字であり参考意見とし て取り入れるのか」などの声もあった。佐藤町 長は判断の参考にしたいと話す。

▷ 南三陸町議会は来月4日にも特別委員会を開 催(20日)

防災庁舎「保存」の請願を6月に4回審査する。 賛成派は町長が決断する前の早期の開催を求め、 反対派は議会が1度早期解体を決定していると し、議論の必要はないと、議会内で駆け引きが 続いている。

▷ 町パブリックコメント (意見公募) 結果発表 (21日)

県有化に「賛成」とする意見が全体の6割を 占めた。6月議会で町長は決断へ。

▷南三陸町の防災対策庁舎の保存問題 (31日)

意見公募は約 4.600 世帯を対象に実施。寄せ られた総数 664 件(14%) のうち賛成が 350 件と 60%に達した。防災庁舎解体を望む遺族の 会の副代表は、個人が特定されるので商売をやっ ている人たちは意見が言いづらく、もっと多く の人たちの反対があったと話す。

9月1日県有化の協定締結

村井知事と佐藤町長との間で、震災遺構とし て平成 43 年 3 月 10 日まで一時保存の、県有化

に関する協定が県庁において締結となった。

南三陸町人口の推移

	南三陸町	志津川	歌津	戸倉	入谷
22年3月	17,815	8,294	5,181	2,433	1,907
23年3月	17,064	7,823	5,061	2,296	1,884
24年3月	15,352	6,733	4,771	1,997	1,851
25年3月	15,066	6,572	4,704	1,922	1,868
26年9月	14,276	5,943	4,575	1,757	2,001
27年5月	13,990	5,711	4,545	1,693	2,041
人口の増減	-3,825	-2,583	-636	-740	+134

平成 22 年 3 月までの人口から平成 27 年 5 月 を差し引き、人口の増減としましたが、3.829 人の減少の中には東日本大震災大津波の死者数 793人(死者 444 人と行方不明 349 人)が入っ ている。

今後の町の人口減少が 10 年後には、現在の 13.975 人(7月末現在)から約1万人となり、 30年後には8千人と予想される。

町は子育世帯への環境整備や支援の拡充を図 り、I ターン・U ターンの受け入れ体制の構築や 観光交流人の拡大を上げる。人口減少への対策 に今、本腰で行政は取り組んでいる。

町の変化あれこれ

- 南三陸町の被災住宅の買い取りが、全体の 87.9%にのぼった。可能筆数 2.552 筆 (98ha) のうち、2.244 筆に達した。 志津川市街地 90.8%、 志津川郊外 87.1%、戸倉 83.8%、歌津 83.5% となった。各地の平均坪買い上げ価格は、志津 川 1.5 万円~ 2.5 万円で、歌津は8千円、戸倉 は5千円だった。土地の早期の町での買い取りは、 住民の住宅再建の、資金の確保のためと見られる。
- ●町税収は 22 年度に 13 億円だったが、23 年は5億7千万円に落ち込んだ。平成27年 の見込みとして 10 億 3,300 万円と水産業の 復活に伴い、8割までに持ち直すが、事業所 の販路拡大や従業員不足で先行きは不透明と なっている。
- 南三陸町の住宅再建が 610 件で支援申請・交 付数となった(4月末)

町内再建が 248 世帯 (40.3%)、登米市・仙台 は 236 世帯 (38.6%) 現地補修が 128 世帯 (20.9%)。今後は防集完了に伴い町内が増加を 見込むが、登米市などに4割の住宅再建が進ん でいた。

● 南三陸町の高齢化率(65 歳以上の人口割合) は 32%で、1.5 ポイント増えた。一人暮らし は人口1万 4.068 人のうち 504 人にのぼる。 気仙沼市は34%の高齢化率で県内6位となり、 南三陸町は9位であった。県全体では17.5%で、 富谷町が 16.5%で県下では一番低い。

🗻 歌津地区の夏の終わりを探訪 😪

午後3時からは地域と参加者による懇親会が開 かれ、南三陸町民は無料で、他高校生以下も無料 で海の幸バーベキュー (参加費 1,000 円) を楽し んだ。一般の町外からの参加の大人は参加費3千 円ながら、田の浦産塩蔵ワカメがプレゼントされた。

年に一度の田の浦の海と共に地域民と支援ボ ランティアの交流会は、地区外からの参加もあり、 南三陸町の復興へ地域一体となり、新たなつな がりの絆を深め、楽しく元気に一日を過ごした。



町広報に「海の運動会 in 田の浦」の開催告知 が入っていた。今年の夏は猛暑の日が続き、町 もお盆に入り雲りや小雨となっていたが、当日は 晴天となった8月16日の運動会を訪れてみた。



「ジェジェジェ」の音楽が流 れる中で、第5競技の「ウ ニとり競争」が新しく建設 された田の浦荷捌所岸壁か らのスタートの準備中だっ た。「メガネ!」「カギ!」 と声が飛び、参加者は救命 胴衣を着用し、船頭さんの いつもの富潤な海の幸のあ

る場所へ船を走らせていた。

ステージでは「ハーフタイムショー」で、自 慢の踊りを来客に披露し、歌に自信のある方の 自慢ののどに多くの拍手が飛んでいた。

今年で3回目となる田の浦の「海の運動会」は、 NPO法人田の浦ファンクラブ・田の浦契約会・ 田の浦ファンクラブ学生サポートチームが主催 し、年々参加者が増し昨年は140名の参加を得た。 震災で大きな被害をうけた歌津田の浦地区の復 興まちづくりの推進、地域の元気づくりを目的に 開催している。

お楽しみ大抽選会や競技に 観客を前に舞う 参加された方々に商品があり、 無料炊き出しと飲み物を提供 していた。滋賀県の方々の提 供の近江米 20Kなど商品も豪 華に用意された。岡田健太郎 さんの作詩・作曲による「海 の運動会」のライブも行われた。





南三陸で2番目に完成した「名足災害公営住宅」 は、集合住宅はSタイプ7戸・Mタイプ12戸・F タイプが7戸整備され、戸建て住宅はLタイプ3 戸・〇タイプ2戸の合計33戸が建設された。



環境は住宅から名 足の漁港が見渡せ、 すぐ下を 45 号線に抜 ける道路があり、交 には商店はなく外売

の販売車が欠かせない。入谷地区の脱水や枡沢地 区の雨漏りによるカビ発生などがあるが、一階部 を物置にするなど生活環境に気を配り生活しやす いとの入居者の声を聴く。集会所も完成し白壁の 住宅が青空に輝いていた。

海と幸を観光客に提供していた。しかし、大津

歌津地区の海水浴場 の名所「長須賀海岸」は、 4年6ヶ月が過ぎても 護岸工事の復旧が続い ている。館浜から泊崎 に続く海岸には多くの 民宿が点在し、歌津の



海水浴場と民宿街があった海岸線

波により海岸線の民宿は全てが流出し、1軒だ けが海から離れた高台に移転し再建しただけと なった。

8.7mの防潮堤看板

海岸線には「ここまで!」と防潮堤の位置を 8.7mと赤で示された看板が立つ。平地は塩害の 農地の圃場工事が進んでいた。

(海水浴場はボランティアにより8月1日に海開 きをし、期間は10日までとなっている。)



歌津地区の大橋の北の端に立ち伊里前市街地 の復旧復興の今を見る。市街地に盛り土が数力 所点在するが、市街地整備はこれからのようだ。 津波は大橋を越え写真の道路まで達した。一日 も早い以前の街並みが再建され、歌津地区民の 賑わいに家族の笑顔が溢れる町が復活し、伊里 前商店街の再生を期待したい。

未来への教訓

復興! 大津波の記憶を風化させない

平成27年(2015年) ~ 地元報道より~

5月の出来事

- ◆水産加工業再建は気仙沼市で6割に、使用する有収水量で把握した。工場の再建が半ばと人 手不足でフル稼働ができないのが理由に上げられる。
- ◆気仙沼市ではニホンシカの駆除隊を発足した。 岩手県から南下しているシカが 700 頭だったもの が直近で千頭にも及ぶ。地元ハンターの 10 人か ら県内の猟友会に呼び掛け 2 倍体制で、本年度は 600 頭の駆除を目標にする。市内の被害は 2,700 万円でその4割がシカの食害となっている。
- ◆気仙沼市の造船・鉄工・電装など7社で、29年度に「みらい造船」を設立する。1社になる事で他港との競争力の強化を図る。売上げは年間40億を見込む。

南三陸町戸倉の神割崎キャンプ場、神割崎観 光プラザ、1日オープン!

ゴールデンウィークを前に、南三陸町観光協会が指定管理者となり、神割崎の2施設が再スタートした。5月3~5日は「潮騒まつり」が開催された。

◇南三陸町ではネパールの大震災の被害に対し、 役場総合支所に「募金箱」を設置した。

◇南三陸警察署は、志津川竹川原の工務店夫婦 強盗殺人事件から 13 年目を向え、チラシを配り 情報を求めた。

- ◆気仙沼市の仮設住宅入居から4年目を迎え、 災害公営住宅の入居は進んでいるものの、現在 も一関市を含め90団地で約5.900人と、岩手・ 宮城のみなし仮設を含めると、約8.700人が狭い仮設で生活している。
- ◆本吉・気仙沼市の今期の養殖ワカメ生産は、前年比の 1.5 倍で 14 億円の水揚げとなり、好調のままで終了を迎える。

◇南三陸町図書館で、「紙飛行機づくり教室」が 開催され、子供たちが青空へと飛行機を飛ばし 楽しんだ。

南三陸町では自主防災組織の支援として、 資機材購入料に上限 35 万円で、費用を補助 する。現状は 22 団体で組織率は「26.5%」 となっている。防災活動で必要とされる。発 電機やガス釜、懐中電燈、備蓄用飲料水、非 常食など、自主防災組織に一律で 10 万円と、 一世帯につき 5,000 円で上限を 35 万円とし、 500 万円を予算措置した。

◇歌津地区の 20 代・30 代の農漁業者が連携した「食と体験」のツアーを企画受け入れし、歌津地区の誘客を図っている。「南三陸!海しょくにん」では、4・5 日に「ピザづくりのための食材収穫の旅」と題した、初の観光ツアーを行い首都圏などから 40 人が集まった。

◆気仙沼市4月末の人口は先月より89人が減少 した。

南三陸町の町民バスが財政的に厳しい状況 にあり、年度内にも有料化を検討している。 復興予算頼みの町民バスは、国からの財政措 置を要望する。利用者は有料にしても残して と話す。

◆被災地の「がんばる漁業」の国の支援が3年間の期間の中で、4月末で終了する。気仙沼沿岸での漁業の経営改善は道半ばで、国に補助事業継続要望をしているものの、操業を中断し係留する船も多くみられる。

◇南三陸町歌津の「田東山のツツジ」が暖かい せいで平年より10日早く見頃を迎えた。(10日)

◆本吉農業改良普及所によると、復旧水田の収穫が半分にとどまっている。客土の地力不足が顕著にあらわれる結果が出た。

◇本吉気仙沼中学校中総体で、志津川中学校バ

レーの男子は2連覇を達成した。

◇第 21 回たつがねMTB(マウンテンバイク) 大会が開催された。首都圏・神奈川等から 120 名が参加し、満開となった歌津田東山ツツジの 林を活走した。地元からは、スポーツレディス の部で気仙沼市の北林牧選手が2位に入った。

南三陸町では人口減少の対策として、佐藤 仁町長を本部長とする「地方創生推進本部」 を設置した。町は若者の定住を促進と、出生 の向上を基本方針として、年内に具体的な対 策をまとめる。

◇復興庁は、5年間の被災地への交付金補助を、6年目からは事業の1部を「地元負担」を求める事とした。

志津川・歌津の商店街の再建に「(仮称)南三陸まちづくり未来」として、第三セクターで運営を図る。株式会社として資本金 4,100万円とし、その内 1 千万円を町が出資し、200万円を商工会が、出店者が 2,000万円を出資する。6月にも会社を立ち上げる予定。

◇南三陸町で大型運転手の「安全宣試」が 12 日 に開催された。事故の防止早期復興を誓った。

- ◆気仙沼市の「太陽光発電」が広がっていて、一般住宅では3年間で716 件、交付額は総額で6,800 万円となった。Co2 の削減は2 千トン相当となった。補助金は出力1 kw に付き2万5千円で、上限10万円となっている。
- ◆気仙沼女子高の「かまぼこ体育館」は5階建ての災害公営住宅建設で、5月20日から解体される。

◇南三陸町では地域の力で高齢者を支えようと、 住民ボランティアを育成し災害公営住宅での見 守りや、買い物支援をしてもらう。町社協は住 民同士が支え合う仕組みを構築する。

◇南三陸教育事務所では、初めての学級担任に 対して、不登校の歯止めを目指し「行きたい学校」 の実現への研修会を行った。教育事務所で初め ての試みをした。

「三陸道」の今後の見通し。登米東和〜志津川IC(27年度、11.1k)、志津川〜南三陸海岸IC(28年度、3k)、南三陸海岸〜歌津IC(29年度、7.1k)、歌津〜歌津北IC(30年度、4k)。IC名は仮称。

◇南三陸町の本庁舎は 29 年 10 月に併用を開始 予定で、歌津総合支所は現支所地内に 29 年 4 月 の供用を目指す。

- ◆気仙沼市の中央自動車学校は、負債総額 8.9 億により特別清算となった。業務の継続は山形 の学校が「新気仙沼中央自動車学校」として運 営している。
- ◆気仙沼市の「認知サポーター」の認定は、2年を残し5千人に達した。国のサポーター 1100万人計画の目標があり、市では更に30年までに8千人を目指す。認知者の見守りに住民の強化体制を図っていく。
- ◇歌津地区で 17 日の「しらうおまつり」の踊り 食いに長蛇の列。
- ◆気仙沼市側の「田東山石像まつり」(田東山観光公園保存会主催)は大震災で中止となっていた。 17 日に地域住民による「護摩祈祷」が行われ、 護摩木をたき地域の復興や発展を願った。
- ◆気仙沼市本吉町の小泉海岸「南三陸シーサイドパレス」が今月から解体が始まる。

◇JA南三陸は、ネギのブランド産地化を目指している。南三陸町では歌津田表・泊浜・板橋、戸倉西戸・在郷、志津川廻館の6工区で栽培を計画している。町は戸倉集荷場を施設整備し、ネギの産地化を後押しする。

◇チリ津波から 55 年、津波の写真が図書館に展示された (20 日)。50 枚のパネル写真には、志津川南町・歌津伊里前の惨状を伝え、八幡川で家財を洗う様子が写っていた。

◇志津川淡水漁業組合は、今年の放流目標を1 千万匹とし、回帰率の安定を重視した。今年の 白サケ捕獲は、2.228 尾と昨年の約3割にとど まった。

- ◆気仙沼市内で 18・19 日と高齢者宅に不審電話が相次ぎ、被害はなかったものの今後も「オレオレ詐欺」に気をつけるよう呼び掛けている。 ◇気仙沼・南三陸地域在宅医療福祉連携委員会は、要介護・要支援の入院に際し、円滑な在宅復帰に向け、医療機関とケアマネとの生活情報を共有し連携今後図っていく。
- ◆気仙沼市の児童・生徒の減少により統廃合が26 年から33 年度まで、29 校(小学校17、中学校10)から小中10 校ずつにする計画を図る。廃校となった学校用地の活用策は進んでいない。

南三陸町は第 12 次の事業費の申請を 11 億3千円とした。資材高騰分として8億4千 万円と清水団地の硬岩掘削工事の3億 1,700 万円が入っている。

◇歌津枡沢災害公営住宅に建設計画の「大和ハウス仙台支店」と入居者が交流のサクラの植樹が行われた。

◇南三陸町佐藤仁町長は「鉄路にこだわらない 姿勢」で、沿岸首長協議を提案し、今後につい て議論をと話す。JR気仙沼線は志津川市街地の かさ上げや整備計画が進む中で、財源も担保さ れない中、町民も早期結論をと望む。町長は方 向性を出す時期を考え、今年に入っても鉄路復 旧には否定的な見解を示している。

◆ハローワーク気仙沼管内では、26 年度新規学 卒者の就職率は事業所再開が後押しし、3年連 続100%に達した。

◇南三陸町のバイオマス事業は 10 月の稼働へ、 志津川保呂毛の旧下水道浄化センター内でプラント建設が始まった。一般家庭からの生ゴミを 利用し、発酵処理したガスは発電や熱供給に、 液肥は農地に活用する。事業費は4億円。

- ◆気仙沼市は下水・し尿汚泥から汚泥製品を作る施設が本格稼働を始めている。汚泥からは炭化製品が終末処理場で製造され、6月からは肥料が無料で配布される。
- ◆気仙沼「みらい造船」に日本財団から補助金 70 億円が交付され、今後の雇用創出と産業復興 が期待されている。

◇復興事業の地元負担リストが公表された。南 三陸町では 11 事業の約 71 億円に対して一部負 担を国は求めている。

南三陸町はボランティア「応援団」を結成した。震災後にボランティア支援で尽くしてくれたボランティアとの交流を図るため推進母体を会員制とした「南三陸応援団」を立ち上げた。今度は観光復興を後押しする。これまでに仙台や東京など3千人が登録している。

- ◆気仙沼市社協の津谷居宅介護支援事業所で、 ケアプラン作成の違反で1千万円の介護報酬を 県に返納する(支払われる介護報酬から天引き される)。
- ◆気仙沼本吉町振興会で「JR気仙沼線の鉄路復旧」が、菅原市長との懇談会で正され、今後 関連首長会とJRとの協議が交わされると話した。
- ◆気仙沼市の借金総額は 511 億円に達し、市民 一人あたり 76 万円となった。

◇南三陸町の高台造成にあたり、住民の意向の変更から空き区画が発生している問題に対し、復興庁は町に空き区画の解消を求めている。町は見直し要求に戸惑い、工期の遅れを懸念している。これには事業費の削減も関係している。



